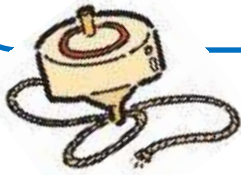
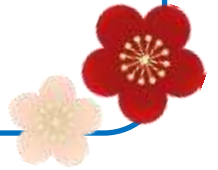




芝浦幼稚園だより

平成 27 年 1 月 8 日
港区立芝浦幼稚園
園長 木村 英美

1 月号



共に生きる力

園長 木村 英美

あけまして、おめでとうございます

芝浦幼稚園の51年目の新しい歴史が始まります。

皆様が、芝浦幼稚園の良き応援団としてくださることに 心より感謝申し上げます。

そして、今年も、大変お世話になりますが、よろしく願いいたします。

笑顔の花がたくさんさきますように！

2015年1月



ご家族で温かな語らいをしながら新たな年を迎えられたことと思います。自分の夢のこと、家族や家庭のこと、幼稚園や学校のこと、地域のことたくさん話題があったことでしょう。

そんな話題の中に、それぞれの場を治める大人の役割と仕事があることがわかります。家庭では、親が心と体をはぐくみ、学校では、先生から知識、技能を学び、地域社会では、大人の背中を見て育ちます。幼稚園では、遊びの楽しさが支えとなって、友達を知り、客観的な目で自分を知り、人として生きることの基本を、園生活しながら学ぶという構えを身につけていきます。ですから、子どもたちにとって、自分たちの存在が、大人と同じ、いやそれ以上に大事にされている（子どものわがままが通るということではありません）と素直に感じるような環境や状況を作り出したいものです。

昨年度は、「♪ありの～ままの～」というフレーズを熱唱する声が園内でもたくさん聞かれました。多くの共感を得る歌です。でもこんな疑問も浮かんできます。「ありのままでよかったら、教育はいらない？」のかと。そして、より大きく、より良い自分になりたいという気持ちが自分自身に芽生え変わっていけることの大事さを語り、伝えていくことが教育そのものではないだろうか。大人の押し付けにならず、さりとは迎合でもない。自分がありながらも、相手を受け入れる。そうすることで、より豊かな場を作り上げたいという「共に生きる力＝共生力」がこれからの生き方そのものになるのだと考えます。

共生力のある場には、エネルギーが感じられますから、伸びる幼稚園・学校、会社などに、困難を乗り越えていくパワーと笑顔があるのは当然の理でしょう。芝浦幼稚園には、大人も子どもも、いつも絶えない『元気と笑顔と夢』があるかを確認、問い直ししながら教育活動を進めてまいりたいと思います。未来を担う子どもたちの幸せを願って、保護者の皆様、地域の方々のご理解とご協力をこれからもよろしくお願いいたします。